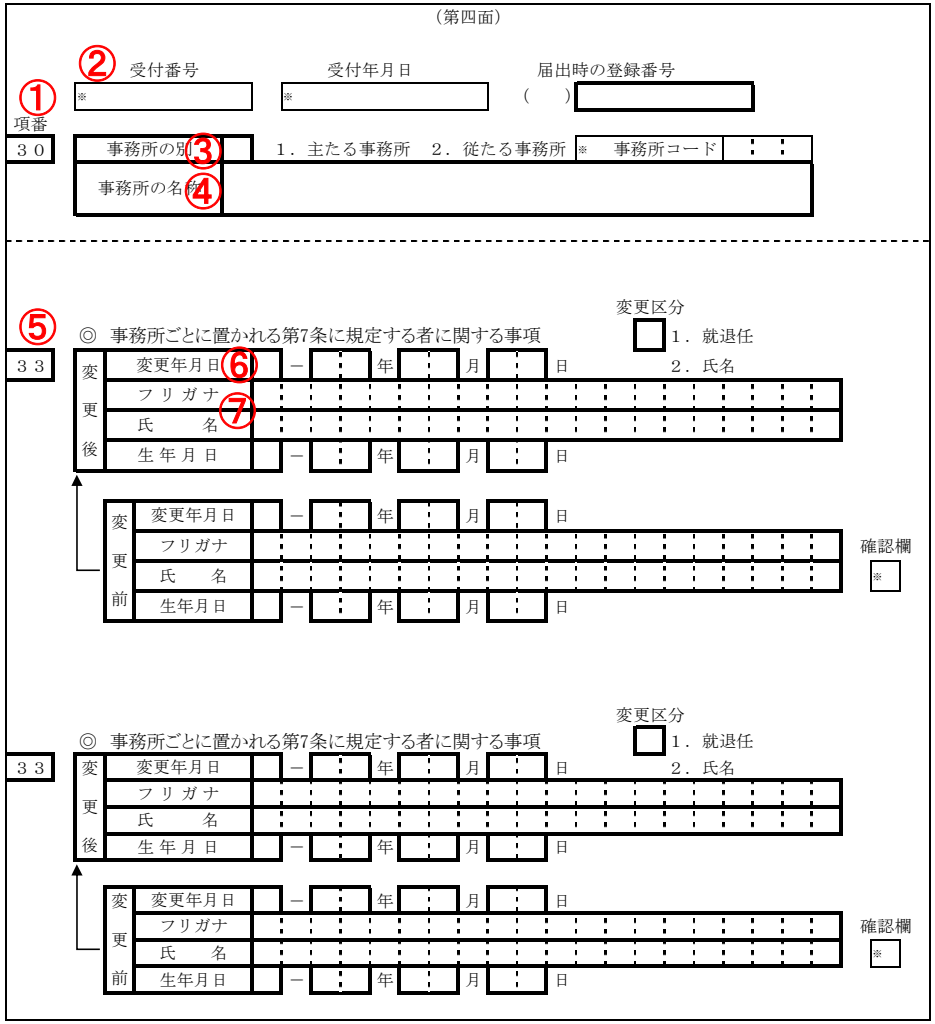

① 第四面は、項番３０の事務所ごとに作成すること。

② 届出者は、＊印の欄には記入しないこと。

③ 「事務所の別」の欄は、該当する番号を記入すること。

④ 項番３０の「事務所の別」及び「事務所の名称」の欄は、その変更の有無にかかわらず、変更前の「事務所の別」及び「事務所の名称」を記入すること。ただし、事務所を新設した場合は、当該事務所の「事務所の別」及び「事務所の名称」を記入すること。

⑤ 項番３３の届出は、次の区分に応じ、それぞれ当該区分に定めるところにより、項番３０の事務所ごとに作成すること。

ア　事務所ごとに置かれる第7条に規定する者に交代があった場合
「変更区分」の欄に「１」を記入するとともに、「変更後」の欄及び「変更前」の欄の両方に記載すること。

イ　事務所ごとに置かれる第7条に規定する者に新たな者を追加した場合
「変更区分」の欄に「１」を記入するとともに、「変更後」の欄にのみ記載すること。

ウ　事務所ごとに置かれる第7条に規定する者を削減した場合
「変更区分」の欄に「１」を記入するとともに、「変更前」の欄にのみ記載すること。

エ　事務所ごとに置かれる第7条に規定する者の氏名に変更があった場合
「変更区分」の欄に「２」を記入するとともに、「変更後」の欄及び「変更前」の欄の両方に記載すること。

⑥ 「変更年月日」及び「生年月日」の欄は、最初の□には下表より該当する元号のコードを記入するとともに、□に数字を記入するに当たっては、空位の□に「０」を記入すること。

（記入例） S ― 6 0 年 0 1 月 0 1 日
［昭和60年１月１日の場合］

M	明治	S	昭和
T	大正	H	平成

⑦ 氏名の「フリガナ」の欄は、カタカナで、姓と名の間に１文字分空けて左詰で記入し、その際、濁点及び半濁点は１文字として扱うこと。また、「氏名」欄も姓と名の間に１文字分空けて左詰めで記入すること。